



## 愛川ふれあいの村5月の風景

# 平成27年5月 自然のたより

5月に入り新芽が顔を出し、新緑の景色が一気に広がりました。下旬には真夏日が続き、汗ばむ陽気となりましたが、新緑が作り出す木陰で感じる風が涼しく、癒されます。

また、キジのつがいがかよく歩いている姿が見られ、鳥類の繁殖や子育ての時期を迎えたことを感じます。



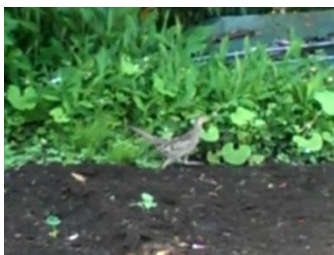
遠くに声を届けているキセキレイ



青空とフジの花



エゴノキの花



キジ（雌）



キジ（雄）



エゴツルクビオトシブミ



トグミが丸めた1丁の揺籃



キイロトラカミキリ



コジャノメ



テイカカズラの花



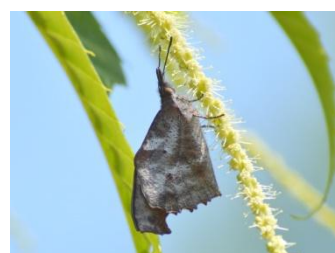
ヒメジャラの花



マユミの花



オオアマナ



テングチョウ



ヤマボウシ

## ◆花のように見えて、実は…?!◆

### ドクダミの花

村内のいたるところに、『ドクダミ』という植物が生えています。茎や葉をちぎると独特な匂いを放つ為、苦手な方が多いようです。しかし、ドクダミは漢方の生薬にされたり、化粧品にされたりと、さまざまな効果があることから、『十薬』ともいわれています。

さて、このドクダミの花ですが、真ん中にある黄色い部分が花なのです。正確には、小さい花が集まってできた、『集合花』というものです。そして、花びらのように見える白い部分が、『総苞』と呼ばれるものです。

この総苞とは、『葉』が発達したものであり、総苞が花びらのように開く前は、集合花を包んでいたのです。

このように、ドクダミと同じような性質をもった植物はたくさんあります。

アジサイやヤマボウシ、アザミなど、いろんな花を観察して植物の不思議を体験してみてください。きっとたくさんの発見ができると思います。



## ▼自然界の命のリレー▼

モミジの木の枝分かれからイチヨウの葉が出ているのを発見。秋から冬にかけて動物がギンナンを食べたカスが残ったまま残り、木に根を生やして芽を出したのでしょう。

本来、植物は子孫を残すために実を目立たせてわざと動物に食べてもらうのです。そうすることでタネは違う場所に運ばれて命をつなぐことができ、また鳥は実から栄養をもらうことができ、お互いに支えあって生きています。

この命のリレーを大切に守っていききたいですね。



## ★旬のお知らせ：5月★

春に私たちを楽しませてくれたサクラは、花が終わり、今はサクランボがなっています。

サクランボは5月下旬から7月中旬が旬となっており、村内のサクラの木には小さいながらもサクランボが赤い実をつけています。

サクランボは甘くておいしいのですが、食べ過ぎると、お腹が緩くなります。サクランボに限らず、バラ科の果物は『ソルビトール』という消化されにくい糖を含んでいるため、リンゴ、ナシ、プラムなども一緒です。

果物に限らず、食べ過ぎには注意しながら、旬のものを味わい、楽しんでみてはいかがでしょうか。



私たちの食卓に並ぶ食べ物には自然界からの贈り物。一か月間、食事を通じて自然と人がどのように関わっているか考えてみませんか。

『食』という漢字は「人」という字の下に「良」と書きます。つまり、『良いものを食べれば身体は良くなる』ということ。身体に良い食べ物とは、添加物の入っていないそれこそ畑や山、海から採れた食材です。

六月の旬の食べ物、内閣府が定めた『食育月間』です。食育月間とは、『食を通して、心や身体の健康を作ることや、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるように、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人を育てる』ことを目的に制定されました。

## ◎六月の

## 注目ポイント◎

発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・大瀧裕基子・姫井豊彦

文章：大瀧裕基子・多田藍子

編集：大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村で、検索★